



1988



中学生の時の僕は、おせじにも強いチームだとは言えなかった。しかし、練習中は全員が真剣で一生懸命プレーをしていた。それにもかかわらず、試合結果はあまり胸を張って言えるようなものではなかった。1年上の先輩達のチームが強かっただけに、劣等感を抱くことも多々あった。そんな逆境にもめげずにがんばってこれたのは、佃先生や市川先生や先輩方の励ましや厳しく丁寧な御指導のおかげだと思う。

高校生になると、練習内容は一段と厳しいものになった。夏の炎天下での練習では、グラウンドに出て少し走ると体中が汗ばみ、のどの渇きが僕達を襲った。しかし、すぐにそんなことは忘れて必死にプレーをしている自分によく驚かされたものだ。雪のちらつく冬の日には、「練習に出るのがいやだなあ」とよく思ったが、グラウンドに出てボールを蹴っているうちにそんな思いは消えてしまった。やはりサッカ

ーが好きなのである。高校になり試合に勝てるようになると、『やればできる』ということを実感すると共に、試合に勝った時の筆舌に尽くし難い喜びとチームワークの大切さというものを知った。

次に僕達の成績の近況報告をしたいと思う。神戸市では1部から4部のリーグに分かれていて、1年に2回リーグ戦を行い、上位リーグの下位と下位リーグの上位が入れ替え戦を行い、その試合で上位リーグが負けると下位リーグに落ちてしまう。僕達は1部リーグで神戸市のトップクラスの学校に交ってプレーをしていた。そして、「お前らは3部まで落ちる」とよく言われた。はっきり言って悔しかった。僕達は1部のリーグ戦で2回とも下位だったので2回入れ替え戦をしたのだが、その度に、「2部の奴らにだけは負けられん」と思った。入れ替え戦ではあの有名な滝川第二高校と神戸高校と試

合をしたのだが、2戦とも自分の体はどうなってもいいと体を張って試合に臨んだ。この時の気合いは並大抵ではなかった。結果は2戦とも勝って1部に残ることができた。この時ほど、『やればできる』ということを強く実感したことはなかった。他の試合について言えば秋の選手権大会では神戸市でベスト8、春の総体では兵庫県でベスト16と我ながら満足している。これらの結果から見ても僕達の学年は『がんばり屋の学年』と言ってもよいのではないだろうか。

最後に6年間サッカーをやってきて本当に良かったと思う。そして、この場をお借りして佃先生や市川先生やサッカー部OBの方々に感謝の意を表したいと思う。

〔島田 大介〕